

太田工業
同窓会報
第三十二号

平成2年10月19日
群馬県立
太田工業高等学校
同窓会
0276(45)4742

同窓会員の皆様へ

副会長関 昌三

記録的な猛暑の続いた夏も終りましたが、同窓会員の皆様方におかれましては日夜御活躍の事と御推察申し上げます。

扱て、昨年の母校新築移転に伴っての「創立三十周年並びに新築移転記念事業」につきましては、会員の皆様方に多大なる御支援を頂いております事に対して、厚く御礼申し上げます。詳細につきましては、本会報でご案内いたしますが、実行委員会の四部会活動も十一月二日の記念式典へ向けて最後の追い込みに入っておりますが、会員皆様に御願いをいたしました募金の状況は、その目標に対して未達という現状です。収支決算は、平成三年三月三十一日迄となっておりますので、皆様方の絶大な御協力を再度御願い申し上げます。

私事ですが、今夏の県教育委員会主催の「群馬県少年の船」の団員として幸運にも長女が選ばれ、

四泊五日の北海道研修に参加をしました。「海なし県の子供たちに洋上体験を」という企画での日常の行動とは違った環境下、四百名余の先輩・後輩達と大変に有意義な経験をして参りました。

しかし残念な事は、班長として小・中学生の面倒を見る四十人の高校生の中に母校の名前を見る事ができなかったのです。母校の教育方針に「常に明朗・誠実で礼儀正しく社会生活に適応し得る」とありますが、最新・最高の設備を駆使して技術面での実力を身につけ、立派な工業人としての育成と同時に、広く社会に通用する「人間性」の養成に対しても、様々な機会に積極的に参加をさせる体制作りを、お願いしたいと考えます。

最後になりましたが、会員皆様におかれましては、健康に十分御留意されまして、益々の御発展を祈念し、同窓会報第二十号発行の御挨拶といたします。

就任の挨拶

学校長 伏間江健二

私は四月の人事異動で、本校九代目の学校長を命ぜられました。私の教師生活の最初の勤務地は高工でした。その後、藤工、県教育センター、そして再び藤工を経た、この伝統ある太田工業校長として赴任して参りました。

この東毛は県下に誇る工業生産地帯であり、中でもこの太田市とその周辺はハイテクと文化の中心でもあります。この群馬県の中心には全国の工業技術をリードしているこの地において、明日の工業人を育成すべき工業教育に携われることを大変光栄なことと思えます。また反面、その責任の重大さを今ひしひしと感じているところでもあります。

さて、本校は本年で創立三十周年を迎えることとなりました。この歴史の中で、特にあの懐かしき旧内ヶ島校舎での二十八年の歲月は同窓会会員の皆様にとつて忘れられない思い出が秘められていることと思います。

しかし技術革新の新风が急激に進み、工業教育も時代の要請を受け、理科教育及び産業教育審議会の答申の中で「高等学校における今後の職業教育の在り方について」また「柔軟で開かれた職業教育」

にむけて多くの具体的な提言がなされました。

現在我が校はこの提言に先がけ高度な技術と柔軟な思考力をもつ実社会での即戦力として高い評価を得ておりますが、平成六年より新教育課程が実施されるにあたり、今までの施設設備が手狭となり、加えて備品の老朽化が問題とされました。これを受けて前校長内田治太郎先生をはじめ、諸先生方の並々ならぬ御配慮と努力、また同窓会会員の絶大なるご協力により平成元年四月に太田市茂木地区に威風堂々たる最新機器を擁した太工校が完成いたしました。

これもひとえに同窓会会員の皆様の日頃からの本校に寄せられて力強い母校愛の賜ものと心より感謝申し上げます。

最後に、現在本校は来たる平成二年十一月二日(金)に創立三十周年記念事業を実施するにあたり、その準備に取り組んでいるところであります。同窓会会員の皆様には今後共益々のご繁栄と母校への発展のご教示と御協力を重ねてお願い申し上げます。就任の挨拶といたします。



「今、学生生活に

思うこと」

二期E 林部 貞雄

母校である太田工業高校を卒業し早や、二十三年の歳月が流れた今や、酒を飲みながらエンピツを持ったが、仲々うまいテーマが浮かばないでいたが、まさしく高校生活をエンジョイしている娘を見て、自分の高校生活を偲びつつ、あの時は何を目的に過していたのかを振り返ることとした。

昭和三十六年四月某日、晴れて入学したものの、足利からの越境入学というハンディもあり、知人友人は全くなく、今ひとつ素直に喜べなかつた。担任は、現在、教頭の重職にある「和田春雄」先生であつた。(三年間、担任)私達が一年の時は、学期は「前期・後期」の二学期制であつたと思う。体育時間は、校庭の石拾いと決まつていた。そのような中で唯一の楽しみは「実習」であつた。「早弁」はする、人の弁当を食べるやら、さぼるやら、大騒ぎであつた。さぞかし先生方は大変だつたことでしょう。物理の高木先生も面白かつた。出席簿で私の前は「林」君であつたが、一回で林君と私を呼ぶのである。最初に「林」「ハイッ」。「部」「ハイッ」という

具合である。カケ合いマンザイである。そんな、こんなしている内に友達もでき、そこから楽しくもあり、苦しくもある高校生活が再スタートしたのである。三年間を通じ、校内球技大会、陸上大会等、クラスのため、級友のため、担任先生の名譽のために闘志を燃やし優勝の山を築きあげた。先生の「ほうび」はパンと牛乳。うまかつた。肝心の勉学は、まあ、それ相応であつたが……

楽しくもあり、苦しくもあつた三年間であつたが、数々の出来事が走馬燈のように激しく去来してくる。今、学生生活とは何かを思うに「社会生活に適應させる条件を、OJTによる実践教育」ということにならう。本校の教育方針の中に「人間形成」という言葉があつた。意味深い言葉であると思う。私達は、知らず知らずのうちに培つていたのではないだろうか。同世代の子を持つ親となつた今、過した時代は違つても、相通じるものは必ずあるもの。人生の折返点にいる私達、いつまでも学生時代の「夢」と「闘志」は失いたくないと考える今日この頃である。高校時代の同級生四名、年一回正月に顔合せをし二十三年になる。いつまでも続けたいものである。

現況報告

三期M 三洋電機 林 達雄

母校太田工業高校を卒業して、今の会社(三洋電機)に入社して早くも二十年(入社前四年前別の学生生活有り)にならうとしています。

職種は、入社以来ボイラーの設計を一貫してやってきました。ボイラーといつても、一般家庭用の小型石油給湯機から業務用の大型まで数十機種生産しています。

入社当初は、ボイラーの設計など自分の本業ではないと思ひ、今はやりの「リクルート」を何度かやろうとしたのですが、結局今の仕事を現在まで続けてきてしまいました。

ようやくボイラー設計の専門家になれたと思つた処、ボイラーの設計、生産部門が、大泉から足利事業所へ移管することになり、通い慣れた大泉から足利へ通勤することになったのが今から三年前、それと同時に自分におとずれたのが、設計部門から原価部門への移転でした。

設計部門で原価計算に対する知識はいくつか持つていたものの、やはり不安でしたが原価知識を得たことでオールラウンドの方が、今では

は自分の為になつたと思つています。足利事業所では、ボイラーの他に石油ストーブ、石油ファンヒーターなど約百種類の製品を生産していますが、これらの製品の原価計算を現在三人で行つていますので

残業が多くなります。しかし設計部門での残業に比べて肉体的疲労は少ないような気がします。今年から当事業所でも「フレックスマイム」を導入して残業時間の減少に務めています。今まで培つてきた知識でこれからは効率的な仕事をしていきたいと思つています。

人との出合い

六期M 亀井 慎一

四十五年に機械科を卒業し、地の鉄工所に就職したのですが、同期に入社した友人が、その入社した年の夏「俺、東京へ出て、経営学の学校に行くんだ」と、話したのである。私はショックでした。何故なら私も在学中の時から、できれば東京の学校へ行きたいと考えていたからです。私が工業を卒業する時代も、「実力の社会」とか、「経験がものをいう時代」とか、何人かの人達から、そのような、言葉を聞き、私もいざれ独立するならば、はやく実社会に出た方が良くと考え、一度は就職をした

わけですが、結局、前出の友人の言葉に刺激を受け、私も東京の学校へ行く決意を固めたのです。そして、翌年の春、友人は東京へ行き、その二年後、私も機械の勉強でなく土木工学を学ぶために上京したのでした。その後四年間勉強し、東京の設計事務所就職する際、「私は、いづれ独立したいと思っていますので勉強させて下さい」と、言ったところ、社長が「わかった規定の給料の他に毎月、一万円やるから、それでかならず専門書を買って読め。ただし、公式類の暗記はしなくてもよい。どの本に、何が書いてあるかだけを覚えればよい」と言われ、それから五年間勉強させてもらいました。その後まもなく独立し現在地元で設計事務所を置き、月四〜五回東京へ、打合せに行っているこの頃です。

今でも、前出の友人と家族ぐるみの付き合いをしています。良きライバルでもあるのです。当時この人達との出会いがなかったら今の私はなかったことでしょう。私が思うに、人との出会いにより人生が変わるような気がしています。

皆様も現在の友人や、また、これから出会うであろう先輩のアドバイスをよく聞き、自分自身で結論を出しよりよき幸せな人生を歩んでいただきたいと思えます。最後は、本人の実力なのです。

太田工業高等学校

創立三十周年を

迎えて

六期C三ツ持清司

創立三十周年おめでとうございませう。私は六期生ですので卒業して早や二十年が立ちます。卒業以来、母校へお邪魔した事はありませんが、夏場の高校野球等で母校の名前を見ると、頑張れ！という気が懐かしさの中に湧いて来ます。

懐かしさと言えば、私たちが在籍当時、他校と一風変わって誇りを感じていた、あの三角形体育館を取り壊しになるそうですね、一末の淋しさを感じます。

私たちが三年生の時、昼食時間が終わっても、この体育館に居座って、坊主頭解放を訴えたのが昨日の事のようにです。この運動は伊勢崎市の高校から端を発し、多数の高校でこの年より長髪が許可されました。

私の在学当時は旅行の事ばかり考えており、あまり勉強しませんでした。高二の時の伊豆七島旅行高三の時のヒッチハイクで日本一周、という風に旅で三年間を終始したなど記憶にあります。

ら!!

旅はいろんな事を教えてくれます。二十才の時、念願の世界旅行をしました。途中で荷物を盗まれたり、病気をしたりで二度ばかり死ぬかなと思つた事がありました。しかしトラベルの語源はトラブルから来たと言われるように、私はこのトラブルから貴重なことを学び、今日があると思います。

これからの太田工業生にも是非「旅」を勧めたいと思います。ちなみに私、この旅を十八年間で五十万で二十六ヶ国を周って来ました。

最後に在校当時の恩師へのお礼を紙面を借りて申し上げますと共に、太田工業高等学校の益々の発展を祈念申し上げます。

山岳部のこと

九期Eアキレス

天笠 裕正

この原稿を書くに当り、改めて学校時代のことを思い出してみると、なんと十七年も前の事であった。私も今では三十六才になり、子供もこの夏一才を迎えた。当時の私には想像もつかない事である。

さて、その当時の思い出と言えば、頭に浮ぶのは「山」、これしかない。入学と同時に山岳部に入り、これが私と山との出会いであり、入社してからも山岳部に入

り、二十代後半まで山、山の日々を送ってしまふ始まりであった。当時の日々の練習はと言えば、ランニングの毎日である。コースは二つあった。一つは今無いが太田ゴルフ場へ行つてのトレイニング、もう一つは高山神社までの階段登りこればかりだった。また時には、リュックにブロックや石を詰めて、金山まで行くのである。

金山まで行ってしまえばどうという事はないが、街の中を行く時は辺りの人には変な目で見られていたことだろう。とにかく地味なスポーツだと思ふ。また、他の運動部と違って勝ち負けがない、これは他のスポーツとの大きな違いだと思ふ。私が山岳部に入ってしまったのも、この辺に理由があるのではないかと思ふ。私には気の弱い所があつて勝負には向かないのだけけれどスポーツは好きなので、ついフラフラと入部してしまつた。

その時はまだ本場の山登りを知らなかつたので、その辺の山に、キャンプにでも行く様なつもりだったのである。実際には、先輩に尻をたたかれないが、重いリュックを背負つて泣き登るのである。そんなに苦しくてもやめなかつたのは、自分に負けたくなかつたのだらう、また、仲間や、先輩のおかげだと思つている。

ここで思い出に残る山行を紹介いたします。私が山岳部に入つて初めての夏山合宿で行つた、北アルプ

ス白馬岳のことは今も、強烈な印象として残っている。登山口で見上げた時の、山の高さや覆い被さる様な岩肌には本当に息をのんでしまった。また初めて見た大雪渓の大きさにビックリ、山頂目指して登山者がアリののように続いているのである。いくら登ってもなかなか山頂に着かない、内心では「なんでこんな事しているのだろう」と思いながら、ひたすら前へ進むしかない。だがやっとの思いで山頂に着いた時には、今までの苦しかった事を忘れてしまう程のすばらしい景色と充実感を味わう事が出来た。

卒業から現在までの私

十八期C富士重工
金子 浩之

私は、就職の時、第一希望の会社の入社試験に落ち、当時、工業化学科の科長でありました、茂木先生のおかげでアキレス(株)に入社する事が出来ました。

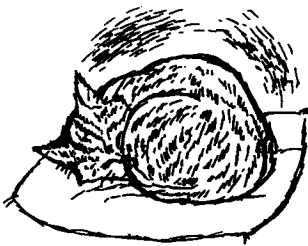
アキレスでは、山辺工場の山辺I N J工場に配属となりました。山辺I N J工場というのは、三交替勤務で、子供の運動靴と長靴を製造しており、私は、子供の運動靴を、I N Jの機械を使い、製造する仕事をしていました。入社時は、はたして、うまく靴が出来るかどうか、不安でしたが、先輩が

たの、親切な指導により、私にもなんとか勤務して出来ました。しかし、中学生の頃から自動車が好きでしたので、自動車関係の仕事に魅力を感じ、まだ、独身であり、年令も三十才前という事、その他いろいろな事を考え、転職を決意しました。

自動車関係の仕事といっても、いろいろありますが、地元企業でもあり、父も、勤務してましたので、富士重工に、入社したいと思ひ、採用試験を受け、七月二十五日より、見習社員として、採用していただきました。

富士重工では、試作部モデル課に配属されました。

同じ企業でも、靴の製造と、モデル課の仕事では、一八〇度違いゼロからのスタートとなりますが、好きな自動車の仕事ですから、一日も早く職場に慣れ、一人前の仕事が出来る様、努力していききたいと思ひます。



創立30周年・新築移転記念事業

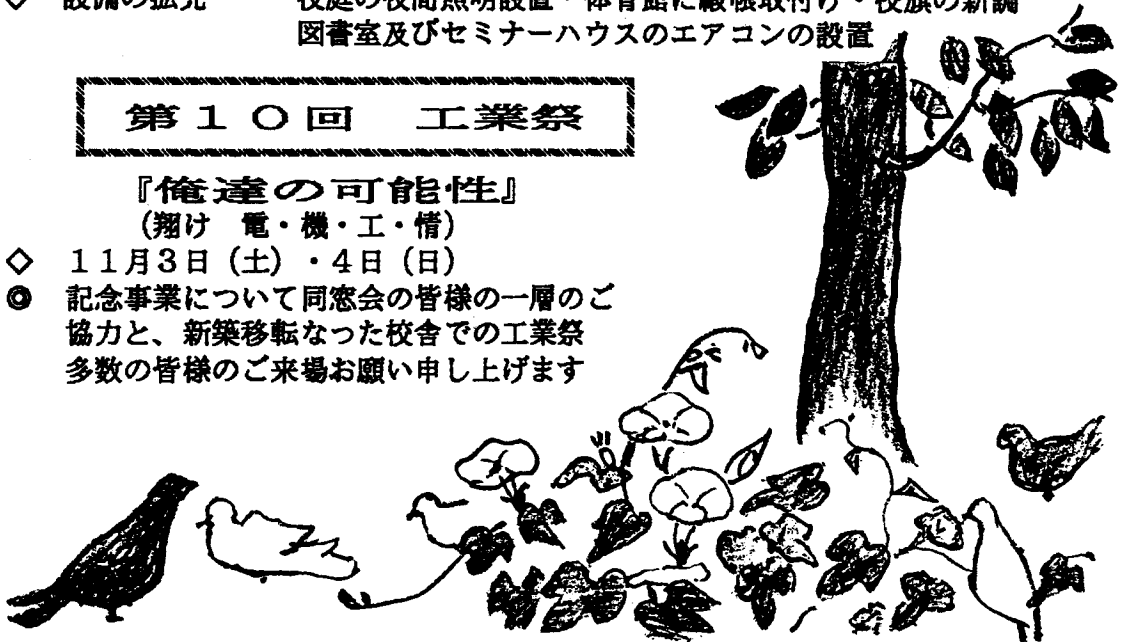
- ◇ 記念式典 11月2日(金) ◇ 記念誌発行 11月1日(木)
- ◇ 設備の拡充 校庭の夜間照明設置・体育館に緞帳取付け・校旗の新調
図書室及びセミナーハウスのエアコンの設置

第10回 工業祭

『俺達の可能性』

(翔け 電・機・工・情)

- ◇ 11月3日(土)・4日(日)
- ◎ 記念事業について同窓会の皆様の一層のご協力と、新築移転なった校舎での工業祭多数の皆様のご来場お願い申し上げます



創立三十周年並びに

新築移転記念事業

実行委員会

経過報告と御案内

実行委員長 林 進一

同窓会員の皆様は、お元気で御活躍されていることと、御推察申しあげます。

昭和三十六年十一月一日に太田工業高等学校の設立が発令され、今年が発令の年から数えろと三十年目にあたる。また、茂木地区への全面移転が完成する平成二年に三十周年記念事業を実施する計画がもちあがってきました。

第一回の準備会がPTA会長、学校後援会長、学校関係者と私が昭和六十三年六月二十四日に集まり、校舎移転後の教育環境の整備充実を図る目的で、三十周年記念事業の実施と正副実行委員長を仮決定した。第二回の準備会を、PTA、後援会、同窓会の各々正副会長と学校関係者が九月十六日に集まり、この会の名称が決まった。事業内容の審議では、冷暖房、体育館の緞張、校庭の夜間照明、記念誌の発行、記念式典の実施が決定された。

実行委員会のメンバーは、PT

A本部役員、後援会は評議員まで、同窓会は本部役員十常任委員八名で組織し、スタートされた。

昭和六十三年十月十八日、第一回実行委員会を開催、委員会組織が承認され、四部会が発足した。この四部会とは、記念誌部会、環境整備部会、記念行事部会、募金部会である。会則案の審議を行ない一部修正し、第一回常任委員会で承認された。そして、各部会が本格的にスタートしました。

環境整備の冷暖房、緞張は、体育館建設と並行して工事が進み、平成元年六月に完成し、生徒達に有効活用されています。是非、一度、茂木の新校舎へお立ち下さることを、希望致します。

現在、募金部会を中心に活動していますが、目標額は未達であり一口五千の募金協力をお願い致します。期間は平成三年三月まで。記念式典は、平成二年十一月二日に実施、工業寮の校内開放は、三日の土曜と四日の日曜に行ないますので、是非、お出掛け下さい。

学校だより

職員異動

- 片山 紀昭先生 (機械) 桐工へ
- 槻岡 陸朗先生 (保体) 桐工へ
- 広瀬 政弘先生 (事務長) 県警へ
- 加藤 智久先生 (数学) 佐波農へ
- 小林 保男先生 (社会) 館高へ
- 宮内 光一先生 (工化) 渋工へ
- 塚越 道夫先生 (英語) 境女へ
- 井田 昌利先生 (数学) 前商へ
- 和田 治子先生 (事務) 伊東へ
- 林 剛嗣先生 (音楽) 太商へ

次の先生方は新任の先生です。伏間江健二校長 藤工より 近藤 弘先生 (事務長)

- 小林 弘文先生 (社会) 高養より
- 三芝 功一先生 (保体) 館高より
- 石北 清先生 (音楽) 太商より
- 柿沼 允子先生 (養護) 太西より
- 岩崎 正先生 (英語) 境女より
- 忍田聡一郎先生 (機械) 桐工より
- 松崎 誠先生 (機械) 桐工より
- 茂木 金司先生 (情報) 渋工より
- 角田真由美先生 (事務) 太商より
- 新井 功先生 (数学) 新任
- 嶋田 和男先生 (情報) 新任
- 清水 智仁先生 (情報) 新任
- 木村 昌史先生 (数学) 新任
- 大吉 堅史先生 (国語) 新任
- 桑原 忠先生 (社会) 新任
- 鎌原 秀治先生 (電気) 新任
- 白石 信明先生 (情報) 新任

- 小林 幸治先生 (工化) 新任
- 野村 春雄先生 (英語) 新任

- 次の先生方が退職されました。
- 内田治太郎校長 退職
- 片山 昭博先生 (社会) 退職
- 田島美代子先生 (養護) 退職
- 大坪 太先生 (国語) 退職

編集後記

新聞・テレビの報道で既に皆様方も御承知の事と思いますが、二期C高橋進君が九月二十六日永眠されました。

生きる道は肝移植だけという成人型先天性シトルリン血症という難病と闘っている高橋君を救おうと、ミシユランオカモトに勤務する同窓会員四十名が「難病を救う会」を結成し活動を進めていました。今回の同窓会報発行に際しても、同窓会員への呼び掛けで、お役に立てばと準備をしていますが、悲しい御知らせとなつてしまった事は誠に残念でなりません。

謹しんでご冥福をお祈りいたします。扱って、同窓会報も第二十号の発行となりました。人間に例えるならば「成人式」を迎えた訳ですが、今後共同窓会員皆様方の御指導・御協力を頂きたくお願い申し上げます。編集後記といたしまして、(関記)

